

子牛の下痢対策を実施しましょう！

令和2年4月から衛生指導協会のワクチンメニューに「牛下痢5種混合不活化ワクチン」が追加されます。

子牛の下痢、特に出生後間もない子牛の下痢はその後の発育に大きな影響を及ぼし、急激な脱水で死亡することもあります。

子牛の下痢対策には、畜舎を衛生的に保つことや適切な飼養管理の実施とともにワクチンの使用が有効です。

牛下痢5種混合不活化ワクチンとは

分娩前の母牛にワクチンを接種することにより、初乳中に多量の抗体を産生させ、母子免疫により子牛の下痢を予防します。

〈 予防できる感染症 〉

牛ロタウイルス感染症

特に生後数日から1週間程度の新生子牛に多発し、激しい水様性下痢を起こします。
(このワクチンには3種類のロタウイルス抗原が入っています。)

牛コロナウイルス感染症

子牛や成牛に下痢や肺炎を引き起こす伝染病で、1～3週齢の新生子牛では激しい下痢が特徴です。

牛大腸菌性下痢症

主に1週齢以内の新生子牛に刺激臭のある黄白色粘調便または水性様下痢便を起こします。

- * 初めて接種する母牛は2回接種が必要です。(分娩1.5か月前と0.5か月前)
次産以降は、分娩の0.5か月前の1回接種です。
- * 接種時の農家手数料は2,400円/1頭です。
- * ワクチン接種は(公社)京都府家畜畜産物衛生指導協会が実施します。
- * 詳しくは下記までお問合せ下さい。

京都府中丹家畜保健衛生所

福知山市字半田371-2

TEL 0773-25-1860 (休日・夜間は転送されます)